

平成 2 5 年度事業報告書

平成 2 5 年 4 月 1 日から

平成 2 6 年 3 月 3 1 日まで

I 財団の運営

お客様本位の視点に立ち、大分県の文化振興施策と協調性を保ちながら、県民の幅広いニーズを踏まえた自主文化事業の実施をはじめ、県民の多様な文化活動の支援、地域文化との連携、さらには、国内外で活躍する大分県出身の芸術家の育成と活動支援など、本県文化創造の中核としての役割を積極的に推進することを基本方針として事業を展開した。特に、音楽を通した子どもの健全育成と豊かな感性の涵養を目的とした、「iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラ」の育成や優れた総合舞台芸術の創造・発信など、財団独自の取り組みを強化し、国において育成が図られている「地域の中核劇場」として iichiko 総合文化センターの位置づけを確固たるものとしている。

また、県民の国際化や在住外国人を支援するため、多面的な国際交流を企画するとともに、交流の場の提供や情報の提供等を行った。

さらに、お客様のための円滑な施設運営と良質なサービスの安定的な提供に努めるとともに、指定管理者制度の趣旨に則ってより効果的・効率的な管理運営を行い、経費の縮減を図った。

平成 2 5 年 1 0 月 1 日からは、2 7 年春に開館予定の県立美術館を加えた新たな指定管理を大分県から受託し、開館記念企画展の準備やミュージアムショップ、カフェ等の業者選定、様々なメディアを利用した情報発信等にも取り組んでいる。

1 管理業務の実施状況に関する事項

(1) 芸術文化に関する情報収集及び提供に関する業務

- 7 月 1 日付けで設置した広報室を活用し、事業を跨いだ共同広告やプレスリリースなど効率的、効果的な広報に努めた。
- 機関誌「e m o (エモ)」、月間イベントカレンダー、ホームページ、メールマガジン、FaceBook、Twitter 等により、文化に関する情報を発信した。1 2 月 2 5 日には、美術館の公式ホームページ、公式 Facebook、公式 Twitter を開設し、美術館及び美術に関する情報発信にも努めている。
- 商店街へのポスターの掲示、HEart of Christmas 2013 サテライト会場での P R、iichiko アトリウムプラザの飾り付けや大型の垂れ幕設置、

PRビデオの放送やテレビ・ラジオ、トキハビジョン、駅ビジョン等による広報活動など、あらゆるネットワークを通じて iichiko 総合文化センターの施設紹介や公演、イベントの周知、県立美術館オープンに向けた機運醸成を図るとともに、県内の芸術文化に関する様々な情報を提供した。

- 県内メディアや実績のある芸術文化団体が主催する質の高い公演について、主催公演と同様に情報提供を行った。
- 大分県公立文化施設協議会の会長館として、各施設の主催事業を取りまとめてポスター（ホール・ナビ）を作成し、大分空港、JR大分駅、県立病院、日本赤十字病院、成人病検診センター、県立図書館、別府国際観光港、トキハデパート、ガレリア竹町ドーム広場、大分県庁等に掲示した。
- 当財団主導で、大分市中心部に位置する大分市美術館、ホルトホール大分、iichiko 総合文化センター、アートプラザに共同広報コーナーを設置し、各施設のイベントの相互広報に努めた。

（２）総合文化センターに関する個別事項

① 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- 施設の維持管理をはじめ、警備や清掃、舞台周りなどの業務を専門業者へ外部委託することにより、正確性、安全性、効率性を確保した。
- 外部委託した業務については、報告書の提出を義務づけ、作業内容や現状を財団が把握し、指導することで、快適な施設環境をつくりだすことができた。
- 各施設の使用後点検を中心に異常箇所の早期発見に努め、不具合箇所に関して迅速な修繕業務を実施した。
- 大分県施設整備課と協働で作成した大規模改修計画に基づき、舞台機構制御盤と吊り物用昇降マシンの改修工事を行った。

② 施設の利用及び利用者の便宜供与に関する業務

- 施設の利用手続きについては円滑に利用者と調整し、クレームやトラブルといった事態は認められなかった。
- 安全対策を徹底した結果、盗難、事故などの事例は発生しなかった。
- iichiko グランシアタをはじめ、各施設において、休館日での利用希望に応じて臨時開館を行い（平成25年度実績：4件）、利用者のニーズに柔軟に対応することで、利用しやすい施設作りに努めた。
- 利用開始時間（9時）の事前延長、利用終了時間（22時）の事後延長

を併せて50回受け入れ、深夜に及ぶ公演、早朝から準備が必要な大規模大会等に対応し、施設利用者の利便性を一層高めた。

- 利用料金の収受において、問題となる事例はなかった。また、平成26年4月1日からの消費税引き上げに伴う利用料金の変更について、館内カウンターやホームページ、郵送や電話連絡により利用者への情報伝達に努めた。

③ ネーミングライツの運用

- 三和酒類株式会社のご協力により、平成22年度から4期目に入ったネーミングライツについて、各施設に次の愛称を使用するとともに、あらゆる機会を通じて周知、定着に努めた。

施設名	愛称
大分県立総合文化センター	iichiko 総合文化センター
大ホール（グランシアタ）	iichiko グランシアタ
中ホール（音の泉ホール）	iichiko 音の泉ホール
アトリウムプラザ	iichiko アトリウムプラザ
練習室等（スペース・ビー）	iichiko スペース・ビー

- 三和酒類株式会社とパートナーシップ業務実施契約を締結し、次の業務を実施した。

- ・パートナーシップ冠事業の表記（5事業）
- ・三和酒類株式会社に対する冠事業チケットの提供
- ・公演のチラシ等における「iichiko」の表記
- ・ホール利用者に対する iichiko オリジナルグッズの提供の代行
- ・両ホールにおける iichiko オリジナルグッズの展示

④ 会員事業の実施

芸術文化に広く関心を持つ人々によって構成され、財団が行う事業への参加を通して、芸術文化に対する視野を広げ、地域文化の向上に寄与するグループである emo 倶楽部会員に対し、emo 倶楽部通信や月刊イベントカレンダー、機関誌 emo などを通じ、様々な情報提供を行うとともに、チケットの優先購入や割引購入などのサービス提供を行った。

なお、平成26年4月からは、iichiko 総合文化センターと県立美術館を含め、大分県内の様々なジャンルの芸術文化活動を広く楽しみ、支える大分県芸術文化友の会「びび」が発足したため、emo 倶楽部の募集を停止し「びび」への入会促進に取り組んでいるところである。

(3) 美術館に関する個別事項

① 開館に向けた準備に関する業務

- 10月1日からの県立美術館の指定管理開始を受け、「美術館開設準備本部」を「美術館」に名称変更するとともに、企画広報班の設置とそれに伴う職員の増員により、平成27年春の美術館開館に向けた準備体制を強化した。
- 平成26年11月の建物引き渡し、平成27年春の開館に向けた準備のため、県の建設工事担当者、備品調達担当者等との協議を継続的に行うとともに、情報システム構築をはじめ、さまざまな美術館に必要な案件について県及び関係者と協議を行った。
- 県との共催によるOPAMフェスタの開催や、高校や坐来大分等で新見館長の講演会等を行い、県立美術館のPRを図った。
- 11月と2月に県との共催により、国立文化財機構東京文化財研究所から講師を招いて資料保存に関する研修を開催し、美術館等における文化財保存に関する知識を習得に努めた。

2 自主事業の実施状況に関する事項

(1) 芸術文化ゾーン

① 出会いと融合による芸術文化創造事業

- 平成27年春開館の県立美術館を含めた新たな芸術文化ゾーンの創造に向けて、大分市中心部の商店街組合や関連施設等と連携して芸術文化ゾーン創造プロジェクト実行委員会を組織し、地域振興や賑わいの創出を目的として県立総合文化センターと県立美術館を中心とした芸術文化の拠点づくりに向けたアートイベントを5月、8月、12月、3月の計4回開催した。
- 5月は、「第15回別府アルゲリッチ音楽祭」祝祭コンサートに合わせて、「おおいたジュニアクラシックフェスタ」と銘打ち、アトリウムプラザを活用して、ジュニアオーケストラや県立緑丘高等学校、津久見檜の実少年少女合唱団による公演を披露した。
 - 8月は、恒例の大分七夕祭りに合わせ「Tanavata Starlight Express 2013」を開催し、ミニコンサートや子供向けワークショップ、高校生・大学生の絵画作品展示、商店街サテライトステージでの大道芸アートパフォーマンスなど様々なイベントに取り組んだ。
 - 12月は、商店街の歳末商戦に合わせて、「HEart of Christmas !2013」

を開催、中高校生芸術文化祭や音楽療法ワークショップ、福祉施設の出店等、教育・福祉・医療等様々なジャンルとのネットワークを活用した事業内容とした。

- 3月は、「春響（はるおと）2014」として、iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ定期演奏会にあわせた音楽イベントを開催した。

② 関係団体とのネットワーク構築

- 県内公立文化施設との連携により、各館主催事業を掲載したポスターの作成による共同広報事業を実施したほか、県内公立の芸術・文化系博物館についても、担当者による意見交換会を開催し、連携事業の可能性を議論した。
- 教育分野との連携事業としては、「Tanavata Starlight Express2013」において「アートの森」と題して県立緑丘高校、芸術文化短大学生によるアート展示を実施したほか、新見県立美術館長を囲んでの意見交換会を開催した。また、「HEart of Christmas !2013」において、高等学校文化連盟、中学校文化連盟との共催により、県大会等で入賞したトップレベルの中高校生による吹奏楽や合唱、演劇、伝統芸能を県民に披露する「中高校生芸術文化祭」を初めて開催した。
- 県立芸術文化短期大学と財団との連携強化に向けた連絡会議を設置し、インターンシップやイベントの協力等の体制づくりを行った。
- 福祉・医療分野では、財団主催自主公演への児童福祉施設や里親児童の招待を実施するとともに、「HEart of Christmas !2013」において、医療福祉関係者を多数集め、音楽療法ワークショップを実施した。また、障害者授産施設を支援するため、財団が発送する郵便物の袋詰め等の作業を委託するように変更した。

(2) 総合文化センター

① 鑑賞系事業

- 海外オーケストラでは、チェコを代表するオーケストラ「プラハ放送交響楽団」の公演を開催した。
- 国内オーケストラでは、日本を代表する吹奏楽オーケストラ「シエナ・ウインド・オーケストラ」公演を、シエナの顔ともいえる指揮者佐渡裕とジャズピアニストの山下洋輔を迎えて開催した。また、日本を代表するオーケストラ「NHK交響楽団」大分公演を、スロヴァキア出身の若手指揮者のユライ・ヴァルチュハ、1990年チャイコフスキー国際コンクール優勝の人気ヴァイオリニスト諏訪内晶子をむかえて開催した。

- 室内楽では、気軽に本格的な舞台芸術を楽しめる「ワンコインリレーコンサート」を5回開催した。(チェンバロ、ピアノ、タンゴ、素浄瑠璃、木管五重奏)
- イーजीリスニングでは、和と洋の音楽が融合した「東儀秀樹×古澤巖 guest.coba」をテレビ大分との共催により開催した。
- ミュージカルでは、ブロードウェイの傑作「王様と私」を松平健、紫吹淳の主演で開催した。
- 伝統芸能では、大分放送との共催により「松竹大歌舞伎」の昼夜2公演を開催した。
- バレエでは、2011年に新国立劇場が制作・上演し好評を博したコンテンポラリー・ダンス公演を世界的バレエダンサー中村恩恵と首藤康之(大分県出身)が再演した。
- 演劇では、テネシー・ウィリアムスによる名作「渴いた太陽」を浅丘ルリ子、上川隆也のダブル主演で上演した。
- 世界の巨匠チェリスト、ダヴィド・ゲリンガスの演奏と世界で活躍中のバレエダンサー針山愛美による舞踊のコラボレーション「BACH Plus」のほか、「大分県立芸術文化短期大学コンサートシリーズ」を共催公演として開催した。

② 創造系事業・普及系事業

- 「iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラ」は定期的に練習を行うとともに、活動5周年を記念してNHK交響楽団メンバーとの合同演奏会を実施したほか、第1回定期演奏会で指揮を務めた下野竜也氏を再び迎え、第5回定期演奏会で「幻想交響曲」ほかを披露した。
- ミュージカル体験ワークショップでは、「Tanavata Starlight Express 2013」及び「HEart of Christmas! 2013」及び「春響」において、成果発表となるパフォーマンスを披露した。
- 県内外で活動するプロの演奏者に協力を依頼し、生の演奏に触れる機会を提供し音楽への関心を高めてもらう「文化キャラバン事業」を、学校や福祉施設等県内21か所で実施した。
- 日頃高度なレッスンを受ける機会の少ない学校に対し、専門の講師による指導を受けることにより演奏技術や表現力の向上を図る「吹奏楽クリニック」を別府北部中学と中津北高校に対し実施した。
- 財団が主催・共催する公演等にボランティアのホールレセプションとして活動する「エモスタッフ」による自主企画を「HEart of Chrstmas 2014」において実施した。
- 芸術文化に触れる機会を与えることにより青少年の情操の育成を図るこ

とを目的として、県内で開催される質の高い公演を選定して中高校生を対象に鑑賞希望者を募集し、計34回の公演にのべ760名を招待した。

(3) 美術館

① 質の高い魅力的な企画展

- 開館年の企画展開催に向けて、国内外の美術館やコレクターと作品借用交渉を継続的に行った。
- 企画展に伴う関連事業、展示構成等について検討を重ねるとともに、展示用備品についても調査、検討を行った。
- 今後の企画事業立案に向けて、内外の美術館や美術関係者とのネットワークづくりに努めるかたわら、具体的な企画案等についての情報収集を行った。

② 館内サービスの充実

- ミュージアムショップ及びカフェの出店事業者の公募、選定を行い、以下のとおり決定した。
 - ・ミュージアムショップ
株式会社千代田・株式会社オークコーポレーション共同企業体
 - ・カフェ
社会福祉法人 博愛会
- ミュージアムショップ、カフェそれぞれの事業者と協議し、コンセプトや運営企画内容、オリジナルグッズやオリジナルメニューの検討を行った。

3 サービス改善提案事業の実施状況に関する事項

比較的舞台芸術に接する機会の少ない県内在住の子どもたちが、生の公演を体験できるように、財団主催の「プラハ放送交響楽団」に127人、財団・大分銀行・NHK大分放送局三者共催の「NHK交響楽団大分公演」に144人（いずれも保護者・引率者含む）を招待した。

4 管理施設の利用状況及び目標指標の達成状況に関する事項

(1) 各施設の利用状況

① iiichiko グランシアタ（大ホール）

- 平成25年度の利用件数は210件（前年度の利用件数は227件）

○内訳は、音楽139件、演劇13件、舞踊20件、その他（講演・大会）38件

○利用率は84.3%（目標指標は83.5%）

② iichiko 音の泉ホール（中ホール）

○平成25年度の利用件数は234件（前年度の利用件数は246件）

○内訳は、音楽134件、演劇14件、舞踊26件、その他（講演・大会）60件

○利用率は87.0%（目標指標は83.5%）

③ iichiko アトリウムプラザ

○平成25年度の利用率は61.4%（前年度の利用率は48.4%、13.0ポイントの増）

④ 会議室

○平成25年度の利用率は60.9%（前年度の利用率は64.5%、3.6ポイントの減）

⑤ iichiko スペース・ビー

○練習室の平成25年度の利用率は92.3%（前年度の利用率は95.8%、3.5%の減）

○県民ギャラリーの平成25年度の利用率は74.8%（前年度の利用率は61.8%、13.0%の増）

○映像小ホールの平成25年度の利用率は45.4%（前年度の利用率は47.2%、1.8%の減）

⑥ 駐車場

○駐車場の平成25年度の入庫台数は248,135台（前年度の入庫台数は254,046台、5,911台の減）

（2）第3期指定管理に係る目標指標の達成状況

大分県立総合文化センター及び大分県立美術館の管理に関する基本協定書第12条に定められた目標指標の年間ホール利用率87.0%以上に対し、平成25年度下半期の実績は、89.6%となった。

(3) ホール入場者実績

- 平成25年度の iichiko グランシアタ入場者数は164,625人、前年度の入場者数は183,963人。
- 平成25年度の iichiko 音の泉ホール入場者数は65,442人、前年度の入場者数は69,570人。
- 両ホール合わせて230,067人。前年度の入場者数(253,533人)と比べ、23,466人下回った。
- 入場者数減少の主な理由は、公演数の減少(340公演→323公演)によるものである。

III 国際交流事業

県民の国際理解や多文化共生意識の醸成、在住外国人に対する支援を図るため、「県民・在住外国人に広く開放された国際交流の拠点づくり」、「在住外国人の生活支援や県民・在住外国人への情報発信」、「国際交流に深く関わりのある団体等への支援」を3本柱として事業を実施した。

1 県民・在住外国人に広く開放された国際交流の拠点づくり

(1) 基本的な情報の収集・提供

おおいた国際交流プラザでは、県民と在住外国人が自由に集い、お互いの情報を交換しあえるような空間づくりを目指して、交流スペース、新聞、雑誌、外国語図書等の利用促進を図った。

また、人権啓発フェスティバル等のブースに出展することなどにより、県民・在住外国人の国際化に関する基本的な情報の収集・提供を行った。

(2) 多文化共生意識の醸成

日本と外国の文化の紹介をはじめ、多様なプログラムを盛り込んだ「おおいた国際フェスタ」を実施して、多文化共生意識の醸成に努めた。

(3) 多文化共生の地域づくり

国際経験豊かな講師による講話や外国映画の上映による国際理解講座を開催し、多文化共生を地域社会に根付かせることができるよう、概念の普及に努めた。

2 在住外国人の生活支援や県民・在住外国人への情報発信

(1) 在住外国人の生活支援

居住、子育て、離婚、在留資格等で悩みを抱えている在住外国人を対象として、行政書士による生活相談を実施するほか、中国語、タガログ語による無料相談を行った。

また、在住外国人支援のための登録ボランティアの拡充に努めるとともに、登録者のためのスキルアップ研修を実施した。

(2) コミュニケーション支援

ホームページ「おおいた国際交流プラザ」の運営や機関誌「ラ・エスタシオン」、英語版「トンボ」、中国語版「大分情報」の発行、facebook や twitter 等ソーシャル・ネットワークサービスの活用、また多言語による携帯メールでの情報発信を行うとともに、ボランティアを活用して通訳・翻訳のコーディネータなどを行い、県民と在住外国人相互のコミュニケーションを促進した。

3 国際交流に深く関わりのある団体等への支援

(1) 他機関との連携・支援

日本語教室の運営や海外との文化・スポーツ交流活動を行う国際交流団体等に対して、補助金を交付しその活動を支援した。

また、国際交流研修会の開催などにより、在住外国人を支援する各種団体や行政機関との連携に努めた。

さらに、未来を担う青少年の交流を進め、異文化体験を通じた児童・生徒の国際相互理解を深めるため、専門のコーディネーターを配置し、交流プログラムの作成や訪日校（海外）と受入校（県内）とのマッチングなどを行った。

また、フィリピンを直撃した台風災害の被災者を支援するため、「HEart of Christmas 2013」において大分県フィリピン友好協会が実施した支援バザーに協力した。

IV スポーツの振興

1 地域のスポーツ振興

スポーツを通じた地域の活性化や健康増進を図るため、スポーツ振興事業基金を財団内に設置して「総合型地域スポーツクラブ」等のスポーツ団体への支援を行うこととし、25年度においては11団体に対し事業への助成を行った。

2 スポーツ公園総合競技場活用促進基金の活用

大分スポーツ公園総合競技場（大分銀行ドーム）を拠点とした多様な交流の場を創出するため、基金による助成事業を行った。

3 (株)大分フットボールクラブへの貸付金管理

平成17年9月21日に大分トリニータ（サッカーJ1）を運営する(株)大分フットボールクラブへ貸付けた2億円については、平成25年3月をもって償還が完了している。

また、平成22年11月19日に融資を実行した2億円については、据置期間を経て、平成24年4月から遅滞なく償還が行われている。

(株)大分フットボールクラブからは、毎月の経営状況の報告を受けるとともに、県とも連携して滞りなく返済されるように貸付金の管理を行った。